

---

---

# 教育総合センター だより

NO. 131

平成 26.3.1

---

---

## 『考えることを楽しみに』

学校計画担当

部長 舟本 康弘



「考えるという行為は、人間に与えられた最大の楽しみだ。」

これは、怪現象の原因を科学的に解き明かし、様々な難事件を解決していく人気テレビ番組の中で、主人公である大学工学部物理学准教授が言った台詞である。また、「好奇心を放置しておくことは罪悪だ。人間が成長する最大のエネルギー源が好奇心だから。」とも言っている。

私は、この番組が好きで、テレビの中での話であることも忘れ、主人公と一緒に難事件の解決に取り組みながら、妙に主人公の言葉の一つひとつが、人が生きていくうえで決して忘れてはならないことを示唆しているのではないかと感じていた。

今年の正月、親戚が集まったときに、数字の「1、1、5、8」を「+、-、×、÷」を使って「10」になるように数式を考えなさいという問題を子どもが出し、父親が困っているというテレビコマーシャルが話題になった。学生時代に理科の教師を目指していたこともあり、「自称、理数系出身」で通してきた私は、小・中学生の甥や姪の前で、いいところを見せようとこの問題にチャレンジしたが、1時間考えても2時間考えても答えがわからない。頭を冷やしてみようと一人屋外で考えてもみたが、結局答えがわからないまま挫折感に打ちのめされて、その日は親戚一同と別れること

になった。その後も、答が気になり、私にとっては、「人間に与えられた最大の楽しみ」であるはずの考える行為が、もはや「最大の苦痛」になりかけていた。

ところが、仕事で学校の校舎建設に伴う国庫補助金と自主財源の額を計算する作業をしているときに、この算定方法が偶然にも、頭を悩ましていた問題を解く鍵となる数式とほぼ同じだということに気づいた。決して、仕事中に答を考えていたわけではないことを申し添えておく。そして、このひらめきのおかげで、やっと私は解放感と達成感に浸ることができたのである。

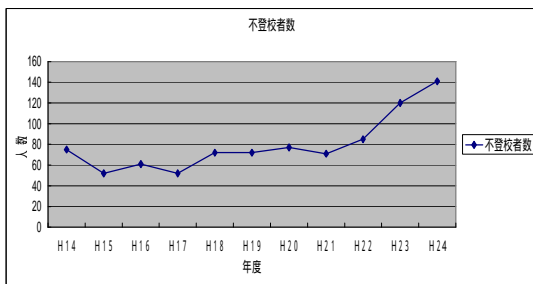
私はこの体験を通し、敬愛する主人公の言葉に改めて感銘を覚え、考えることを楽しみに感じることができる人を育てるためには、様々なことに好奇心や関心を寄せ、豊かな知識や経験を身につけることができる学校を創っていくことが大切なのだと感じたのであった。

なお、このような考え方は、教育基本法の「教育の目的」や「教育の目標」などの中には、もっと幅広い視点で、より具体的に示されている。私のように「市立幼稚園の教育振興」や「小・中学校の適正規模・適正配置推進」、「高等学校の再編」などに携わってきた者が、今さらながら「痛感した」とこの場で打ち明けるのは、少し恥ずかしいことなのかも知れない。

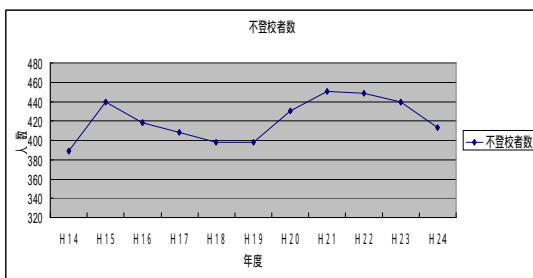
## 心の「スイッチ」

つぎのグラフは、本市の不登校者数についての経年比較です。小学校においては、増加傾向にあり、中学校においては、わずかながら減少傾向にあります。この数字は、他市等と比較するとかなり高い傾向にあります。

(小学校)



(中学校)



各校においては、長欠・不登校に対して、様々な取り組みを行っていただいています。そこでは、不登校に至る背景や原因を探り、対応を協議し、一人一人に応じた取り組みをなされていると思います。ところが、背景や原因は非常に多様であり、その対応方法も千差万別です。そこが、不登校対応の最も難しいところだと考えております。

先日行われた中学校不登校研究協議会での取り組み事例をご紹介します。

中学生のA君は2年生時には、全く登校できていない状態で、訪問指導員の家庭訪問を通じた登校指導を行ってまいりました。さらに、A君は2年生の途中で転校することとなり、

転校先でも同様の状態が続いていました。

ある日、不登校担当の先生が、技術担当ということもあり、家庭訪問で話題にしたパソコンのプログラミングに興味を示したことをきっかけに、放課後のプログラミング指導が始まりました。その後は順調に、放課後登校するようになり、ロボカップ出場を目指すとともに、文化祭では3年生の修学旅行の映像編集の発表等、積極的に活動することができ、周囲からもその活動が認められていきました。さらに、高校進学への意欲の高まりとともに、保護者との協力関係を築くことができました。

この例が示すことは、不登校の子どもには、どこかに「スイッチ」があるということです。その「スイッチ」はどこにあるのか？いつ生まれるのか？それを探ったり、タイミングをうかがったりすることが求められます。ここでは、1人より2人、2人より3人と、多くの人による多面的な関わりが、「スイッチ」発見の可能性を高めます。この「スイッチ」探しは、非常に難しいですが、子どもはその「スイッチ」を押してくれるのを待っています。

私も、家では食事やお風呂の時などに、子どもに「学校楽しいか？」「友達はどないや？」「先生は？」と尋ね、いろいろな「スイッチ」探しをしています。今のところは笑顔で答えてくれています。

教師として、不登校の子どもをクラスの40人分の1人としてのみ捉えるのではなく、欠席している「ひとり」の子どもとして、様々な視点から捉え、対応していくことが非常に大切なことなのではないでしょうか。

(生徒指導・特別支援担当係長 真島 清行)

(教育長の講話をお聞きして)

「しづとさのある教師」を目指し、私は・・・

私は現在4年生の学級担任をしています。毎日子どもと関わっていく中で、生徒指導、保護者対応、学習を含めた学級経営のあり方など、日々いろいろな課題に直面していますが、そのたびに先輩の先生方からアドバイスをいただき、課題を乗り越え、楽しく充実した教師生活を送っています。

今回初めて徳田教育長の講話をお聞きし、改めて尼崎市で働きたい熱い思いが、これまで以上に沸々と湧いてきました。同時に情熱を持ち教育に関わり、子どもと接していく事の大切さを感じました。また、教育長自らの経験や実践記録の書かれた冊子は、日々悩んでいることの解決の手立てとなり大変参考になりました。若手教師の私たちをも大切に想い、考えてくださっていると感じた講話でした。

教育長の子どもを思う熱心な講話をお聞きしていると、私の尊敬する中学時代の恩師のことを思い出しました。私が教師を目指したきっかけは、その先生との出会いがあったからです。その先生はどんな時でも子どもに熱く関わり、中学時代反抗する事が多かった私のことを見放さず、親身になって考えてくださった先生でした。講話にもあったように、子どもにとって心に残り、いつまでも尊敬される先生は、粘り強く一人ひとりの子どものことを考え、向き合ってくれる先生だと改めて思いました。私も今以上に、子ども一人ひとりと正面から向き合い、「今、この子に何をしてあげられるのか」を大切に考え、少しでも子どもたちのよりよい成長に向けた手助けができるように、努力していこうと決意しました。

また、日々悩んでいることについて、経験を交えた具体的なアドバイスもたくさんいただきました。その中でも、学級経営を

推進するうえで「掃除の大切さ」のお話は深く心に残りました。たとえば教室の隅、戸口の溝、黒板を美しく掃除するポイント。掃除は教師と子どもの共同作業であるということ。教師が汚れている掃除道具を嫌がっているのは子どもも嫌がる。教師は子どもの見本として、率先して掃除をするなど、次の日からすぐ実践できることでした。振り返れば、私は今まで子どもに任せていた部分があった気がします。普段の掃除が、学級経営に大きな影響があるなど、あまり考えもしませんでした。子どもの心が整うよう、美しく整っている教室を目指し、これからは子どもと一緒に掃除に取り組もうと思っています。また、頑張っている子どもはしっかりと褒め、教室をきれいにしようと思う心を養いたいと思います。

今後の私の目標は、早く正規職員となり、生涯にわたり多くの子どもたちの成長に携わっていくことです。そのためには教室の子どもを大切にし、一人ひとりと深く関わるとともに、これから出会う子どもたちのために自己研鑽を重ねることです。私は今、子どもと過ごす時間がとても楽しく、毎日学校に行く事に喜びを感じています。これから様々な困難が待ち受けているかと思いますが、情熱を忘れず、講話の内容を今後の自分の教師人生に生かせるように頑張っていこうと心に誓っています。

自分の生まれ育ったこの尼崎市に誇りを感じるとともに、ここで教師を続けたいと深く感じました。教育長がお話しされていた尼っ子のよさである「しづとく生きる」を胸に、「しづとさのある教師」として教鞭を執る覚悟です。

(小園小学校臨時講師 中井 友希)

## 教育情報コーナーへどうぞ

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。ぜひお気軽にお立ち寄りください。（教育総合センター3階：担当 幾田）

「通常学級に在籍する発達障害の可能性のある特別教育的支援を必要とする児童生徒の関する調査」（平成24年2月文部科学省）によれば、“学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合”は6.5%にもものぼります。先生方の適切な支援を待っています。そこで、今回は「発達障害の子どもとクラスづくり」に関連した本をご紹介します。

- ・『イラスト版ADHDのともだちを理解する本』 原 仁・笹森洋樹著
- ・『イラスト版発達障害の子がいるクラスの作り方』 梅原厚子著
- ・『イラスト版教師のためのソーシャル・スキルトレーニング』 河村茂雄著
- ・『イラスト版子どものソーシャル・スキル』 相川 充・猪刈恵美子著
- ・『ふしぎだね！自閉症のおともだち』 高山恵子著
- ・『ふしぎだね！アスペルガー症候群のおともだち』 高山恵子著
- ・『ふしぎだね！LD（学習障害）のおともだち』 高山恵子著
- ・『ふしぎだね！ADHD（注意欠陥多動性障害）のおともだち』 高山恵子著
- ・『ふしぎだね！発達障害のおともだち』 高山恵子著
- ・『発達障害のある子どもができることを伸ばす～学童編』 杉山登志郎著
- ・『発達障害のある子どもができることを伸ばす～幼児編』 杉山登志郎著
- ・『LD・ADHD特別支援マニュアル～通常学級での配慮と指導』 森 孝一著
- ・『ADHDサポートガイド～わかりやすい指導のコツ』 森 孝一著
- ・『LD・ADHD・高機能自閉症～就学&学習支援』 森 孝一著
- ・『実践ソーシャル・スキルマニュアル』 上野一彦・岡田 智著
- ・『学習障害（LD）及びその周辺の子どもたち』 尾崎洋一郎著
- ・『ADHD及びその周辺の子どもたち』 尾崎洋一郎著
- ・『高機能自閉症・アスペルガー症候群及びその周辺の子どもたち』 〃
- ・『発達障害とその周辺の子どもたち～発達促進の基礎知識』 尾崎洋一郎著

## 教育相談をご利用ください

子どもたちへの対応等でお悩みの時は、いつでもご相談ください。

- ・幼稚園や学校などへ行きたくない
- ・友だちとうまく遊べない
- ・学習についていけない
- ・落ち着きがない、忘れ物が多い など

まず、電話でお申し込みください。＜06＞6423-2550

受付時間 月曜日～金曜日（祝日を除く）午前9時～午後5時30分

（教育総合センター2階：教育相談担当）